堂倉谷本谷

【報　告　者】I 木、I 村、O 森
【日　　時】平成 22 年 7 月 17～18 日　　【天　候】晴れ
【参　加　者】I 木、I 村、O 森

≪コースタイム≫

17 日　6：50 大台ケ原駐車場―9：40 堂倉滝下―13：00 アザミ谷―15：50 林道手前(泊)
18 日　6：45 出発―9：00 二俣―10：00 シャクナゲ谷―12：20 奥の二俣―12：45
　　登山道―13：30 大台ケ原駐車場

≪　報　　告　≫

関西、紀伊半島にはいい沢がすっごくたくさんあるらしい、ということで、前々から行きたいとは思っていました。しかし、中途半端に遠いため、お盆に一週間かけて行くほどではないし、週末に行くにはきつい。そんなわけでなかなか人が集まらず、数年間機会を狙っていました。今回ようやくメンバーが集まり、3 連休で行ってきました。

出発当日の 16 日、夕方に連絡が入り、メンバーの F 末君が急きょ仕事で行けないことに。傷心の F 末君を福岡に残し、3 人で一路東へ向かった。こんなに長いドライブは久しぶり。寝ながら交代で運転し、9 時間くらいかけて大台ケ原の駐車場に到着した。連休初日だがさすがにまだ人は少ない。結局しっかり寝ないまま、準備を整えて出発した。初めは駐車場周辺の散策コースを日出ヶ岳まで登り、景色を楽しんだ後入渓地点まで延々と下っていく。次第に道は険しくなり、ちょっとうんざりしてきたころに、ようやく堂倉滝に到着した。滝は立派な釜があって、すごい迫力。ここからは吊り橋の対岸、少し歩いた先に右手に踏み跡があるためそれを登っていく。（後で他の記録を見ると、もう少し先の吊り橋あたりにもっとしっかりした道があったらしい）トロッコ軌道跡まで登りきり、残置ロープを伝って沢に下りていく。特に難しいこともなく本流に降り立つことができ、遡行開始。しか

堂倉谷のハイライト「七つ釜」

し、水流が多い。先週まで毎日のように雨が降っていたので無理もない。最初の何でもないナメも、流れに足を取られそうになって進まない。こんなペースで大丈夫か・・と不安になってくる。すぐ上の 30m 滝を右から巻き、しばらく行くとそんなに水量の多さは気にならなくなる。水はものすごく透明で、大きな釜や淵が出てきてさすがにスケールが大きい。大きな岩が多く、岩の間からつつじが咲いており色鮮やかだった。花に興味のない 3 人も、これはきれいと言っていた。泳ぐところも多く、I 村さん、O 森さんの二人はガンガン泳いでいくが、私はザイルで引いてもらい、思ったよりいいペースでアザミ谷出合に着くことができた。本当は今日はここまでだったが、時間も早いし、明日の行程を考えて林道まで行くことにした。アザミ谷をすぎるといよいよハイライトの奥七つ釜にさしかかる。深い釜とナメが続く、ダイナミックな光景だ。と、ここで O 森さんの足取りが遅くなり、しきりに釜の中を覗いている。どうしたのか尋ねると、「飛び込んでいいですか？」ええ～っつ結構高いんですけど、「・・いいですよ。」と言ったら荷物を置いて、躊躇なくあっという間に飛び込んでしまった。楽しそうではあったが、私と I 村さんは遠慮した。そのあとも滑滝や釜が続き、泳ぎを交えながら進むと堰堤が現れて河原となる。ちょうどいい時間なので、林道少し手前に幕営地を見繕い、この日は終了とした。夜は木が湿っていたため焚火マスターの I 村さんでもなかなか火がつかずにやきもきしたが、どうにか火をおこし、食担 O 森さんの用意した豪華食材（沢中泊で初めて網焼きの焼き肉、アボガドなど食べました！）を楽しみながら夜が更けて行った。

(7/18：2 日目)

5 時 30 分起床。本日も晴天なり。前日に引き続き、0 森さんの朝食で満足。快適なテン場を後にし、ゴーロを少し行くと立派な林道が現れる。林道を過ぎるとひたすら平凡な渓相が続き、ちょっと残念な感じ。ところが、堰堤を過ぎ、シャクナゲ谷との出会いを過ぎたころから一転、攻撃的な渓相に。地形図でも等高線が密になっているのが分かる。ここから先は滝につぐ滝のオンパレード！しかも、登れる滝が多いので非常に楽しめる。0 森さんは水流の滝をバシャバシャ突進！経験が浅いとは言え、全く問題なく登攀している。ザイルを出したのは 1 回だけだったが、グレード的には非常に易しい。残置ピトンもある。１つ１つ

源流部でも泳ぎ！

の滝はあまり記憶がないが、楽しんで登れるところが多い。源流部になると斜滝が続くが、水量が多いため釜を泳いで滝に取り付く場面もあった。そんなこんなで原生林豊かな中、高度を稼いでいくと、次第に水がなくなり、殆ど苦労することなく登山道にぶつかる。連休中とあってか一般ハイカーが多く、少々恥ずかしい。十分に整備された登山道を 30 分程歩くと、駐車場に到着。途中温泉に入り、大阪港よりフェリーで福岡へ。なかなか快適な船旅でした。

堂倉谷は、前半部分は泳ぎ、後半部分は登り、と非常にメリハリの利いた良い沢でした。水質も 5m くらいなら沢底までくっきり見えるほどきれいです。関西を代表する沢に間違いなし！

(感想：O 森)

私のアウトドアの原体験は、小学２年生の時に行った和歌山県の古座川でのキャンプです。どこまでも澄み切ったエメラルドグリーンの水の中、無数の魚達と泳いだ幼少期の鮮烈な体験が、その後の探検部入部や本会入会へとつながっているような気がします。

思い出の古座川とは少し場所が離れていますが、今回行った堂倉谷は同じ紀伊半島の沢ということもあり、例えるならば、初恋の人に会いに行くような感覚で、行く前からかなり楽しみにしていました。

陸路約１０時間かけて辿り着いた大台ヶ原駐車場から、更に山中を上り下りすること約３時間。堂倉谷は、どこまでも澄み切った清冽そのものの水を湛え、我々を迎えてくれました。思い出は美化されるものですが、目の前の沢の美しさは、私の想像を超えるものであり、２日に渉る遡行中もその印象は、変わることはありませんでした。

沢登りを初めて２シーズン目。紀伊半島屈指の名沢である堂倉谷本谷遡行に参加させていただき、未熟な自分の面倒を見ていただいた I 木さん、I 村さんには感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。また、紀伊半島の沢に行きましょう！

七つ釜にダイブ！